

生物物理夏の学校の報告書

北海道大学大学院生命科学院 生物情報解析科学研究室 修士2年 柴崎宏介

私は、夏の学校を通じて、得たものが四つございます。

- ①研究室以外の様々な人脈。
- ②他分野の研究に対する見識
- ③現在行っている研究の位置づけ
- ④研究者として生きていく覚悟

①については、去年とは参加した方が大幅に違い、会うのも初めてなので、お互い知らないことばかりでした。従って、聞きたいこと、また話したいことは山ほどあり、熱い討論、及び和やかな談笑を楽しむことが出来ました。名刺を交換した人は10人を超え、その3~4倍にも及ぶ方と交流の機会を持つことが出来ました。特に、研究者として生きていくのが難しくなっていく中、研究者を目指すもの同士で、共通する悩み、目標、人生観などを語り合えたことは、大きな励みになりました。また、価値観が異なる相手にも多く出くわし、新しい刺激を受けました。

②については、ほかの方の研究発表、議論に参加することで得ることが出来ました。わからないことが多くても、熱心に議論している方の話は聞いていて飽きないもので、聞けば聞くほど、わからないものもだんだん理解でき、その魅力を感じる事が出来ました。

③については、自分の研究、さらには、研究以外の知識が思わぬところで、他分野の役に立てることを知ることで得ることが出来ました。今まで気付かなかった自分の長所に気づき、相手の素晴らしい点も多く学ぶことが出来たので、今後の研究方針を立てる上で、協力できる相手を多く見出すことが出来ました。また、自分も他の研究者方の力になれるよう努力しようと強く感じました。

④については、柳田邦夫先生や神山勉先生など多くの素晴らしい先輩研究者と出会い、研究者としての心構え、なすべきことを伺って得ることが出来ました。同時に、このような素晴らしい先生方も意外に自分と同じような感性、悩みを持っていらっしゃることを知り、非常に親近感を持ちました。また、政府の科学技術に対する政策の改善すべき点、研究者の側から何が出来るかについてもなども議論しました。

このように、生物物理夏の学校に行くことで得ることが出来ました研究者として生きる道しるべと心を通わすことが出来た多種多様な人間関係を、私は生涯大切にしようと考えています。

生物物理夏の学校に参加する上で、補助金を出してくださった生物物理学会北海道支部に厚く御礼申し上げます。